片平洌彦先生を偲んで

臨床・社会薬学研究所 副所長 榎 宏朗

片平先生(2003年)

片平洌彦先生は1944年に神奈川県足柄上郡共和村にお生まれになりました。子ども時代は病気がちでしたが勉学に勤しみ東京大学医学部に進学されました。

当時は東大紛争の真っ只中。暴力の嵐の中にあっても先生は常に対話を重んじ平和的な姿勢を貫かれたと聞いています。成績優秀であった先生は医学科へ編入もできたのですが体力に自信がないため、医者の道ではなく人々の健康を守る保健学研究者の道を選ばれたとよく話されていました。

統計を基礎から学び活かす

大学院時代には院生ながら厚生省調査研究班の一員となりスモン病の被害者調査に参加し、その研究をまとめた論文で博士号を取得されました。この被害者の立場に立った調査・研究は先生の原点だったのだろうと思います。

優秀な先生でも教職に就くためには苦労されたそうです。しかし、美濃部革新都政の下、ポストが増え東京医科歯科大学難治疾患研究所の助手に就任できたとお話しくださいました。当時の所長は統計学の泰斗である佐久間昭先生でした。先生はその下で統計を基礎から学ばれました。その成果は数多くの被害者調査や、基礎から応用まで学ぶことができる『やさしい統計学』の執筆に活かされました。私が統計を使った論文で博士号を取得できたのもこの著書のおかげです。

一貫して被害者の立場に立った調査・研究を行う

日本ではサリドマイド、薬害スモンから薬害HIV、薬害肝炎など、薬害が多発しました。先生は一貫して被害者の立場に立ち、特に薬害エイズでは被害者を支える運動を、薬害肝炎では国の研究班で被害者調査をなされました。研究所にある先生の原稿は、先生の勤勉さを示すように膨大な量が残されており、当時を知る歴史的証拠としてその保存と伝承が求められています。

『ノーモア薬害』改定出版に向けて

私が最後にお見舞いに上がったのはご逝去の2日前でした。その時には先生の研究の集大成として改定出版予定の『ノーモア薬害』の進捗をご報告申し上げました。「これで先生の研究成果が後世に残されて薬害の根絶につながりますね」「多くの被害者が私たちの不幸は報われたと喜んでくれますね」と申し上げると、目尻に涙を浮かべていらっしゃいました。

あまりにも突然で早すぎる別れに呆然とするばかりですが、私にできることは『ノーモア薬害』の出版をはじめ、先生の残された願いを果たしてゆくことだと思います。微力ながら尽くしてまいりますので、どうぞ安らかにお休みください。

臨床・社会薬学研究所のメンバーと共に(2020年)